

# 平成18年度中間決算報告書



株式会社エフエム東京

平成18年11月14日

報道各位

株式会社エフエム東京

### 平成18年度中間期業績の概況

当中間連結会計年度におけるわが国経済は、企業収益の改善や設備投資の拡大、個人消費の緩やかな増加等に支えられ、引き続き回復基調で推移いたしました。

当社グループの中核をなす放送事業をめぐる環境は、日本民間放送連盟によると、平成18年度上半期営業収益がテレビで前年同期比1.7%減、ラジオでは4.4%減と見込まれ、依然として放送事業者にとって厳しい事業環境が続いています。一方、インターネット関連業界は、広告、コンテンツ販売、物販などの各分野で、引き続き高い成長率を達成しています。

このような状況の中、当社グループの当中間連結売上高は、161億6百万円（前年同期比0.3%減）、前々期の子会社取得に伴うのれん（連結調整勘定）の償却などの影響で営業利益は5千万円（前年同期比79.5%減）、経常利益は1千9百万円（前年同期比89.2%減）となりました。その結果、中間純損失は2億6百万円（前期中間純損失は2億4千1百万円）となりました。

当社単独業績につきましては、営業収益は114億1千2百万円（前年同期比3.6%減）、営業利益は3億4千6百万円（前年同期比5.9%増）、経常利益は5億7千6百万円（前年同期比38.0%増）、中間純利益は3億1千5百万円（前年同期比36.4%増）となりました。

#### ①放送事業活動

FM放送事業における当上半期の主な取り組みとしては、当社のヒューマンコンシャスキャンペーンを具現化した全国38局ネットの大型プログラム「スクール・オブ・ロック」が、番組発のインターネットコンテンツの充実やイベント開催等により、ターゲットである10代リスナーの大きな話題となりました。中でも、虐待等の親子問題を取り上げたところ、番組のBBS（掲示板）宛に多数の投稿が寄せられ、新聞の社会面に掲載されたほか、9月にはテレビドラマの舞台となるなど注目されました。

また、サッカー・ワールドカップでは、現地から生の情報を伝える一方で、国民の関心事となった日本対ブラジル戦に合わせ「もしも日本がブラジルに勝ったら〇〇します宣言！」をアーティストや著名人から募集、各種メディアでも取り上げられるなど大きな反響を呼びました。一方、今年で17回目を数えた「アースデー・コンサート」世界中継や、6年目を迎えたリスナーとパーソナリティ参加による富士清掃登山など、環境保全を訴える放送連動企画を実施いたしました。

新たなメディアイノベーションを目指す地上デジタルラジオ放送に関しては、この12月、DRP＝デジタルラジオ推進協議会が実用化試験局として出力を2.4kWに増力、待望の

携帯電話内蔵型の受信機も発売となり、本放送に準じたサービスが開始されます。関連法整備に関しては、地上デジタルテレビジョン放送完全移行後の VHF 帯域の利用方針が決定する平成 19 年度中になるものとみられ、在京 5 社で準備を進めてきたマルチプレックスジャパンによる全国展開計画についてはいったん白紙撤回となりましたが、当社では当初より目指してきた 3 セグメント放送により、音声放送 3~4 チャンネルに加え、映像も含めたデータ放送を行っていきます。

放送事業活動では、このほか、ティーエフエム・インタラクティブ株式会社が、東日本電信電話株式会社からの増資を受け、この秋からスタートするフレッツフォンを使った光ブロードバンドコンテンツ配信新事業の準備を進めたのはじめ、株式会社エフエムサウンズなどの番組制作子会社では、ポットキャスティングコンテンツの制作など放送番組以外の制作受注が収益を生み始めました。

## ②企画・制作事業活動

企画・制作事業においては、ブロードウェイ・ミュージカル「ムーヴィング・アウト」、  
「マドンナ」、「松任谷由実」、「B'z」、「DREAMS COME TRUE」公演など、当上半期のエンタテインメント界を代表するイベントを多数、主催しました。また、17 回目を迎えたアースデー・コンサートでは、ケニアのノーベル平和賞受賞者ワンガリ・マータイ氏と倉木麻衣の対談などコンサートの枠を超えたクロスメディア展開を実現、話題となりました。5 年目となる「グレーター・トウキョウ・フェスティバル」は、「G T F 日比谷」「トーキョーシネマショー」などを中心に昨年を 125 万人上回る 625 万人を動員し、新たに経済産業省の支援事業として認定されました。映画事業においては、100 万人を動員した「嫌われ松子の一生」をはじめ「花よりもなほ」「バルトの楽園」などの話題作を共同製作いたしました。

一方、連結子会社の東京エフエム音楽出版株式会社では、会員制オーディションサイト「ミュージック・イン・ザ・ファスト・レイン」を 4 月に開設しました。「ミュージック・イン・ザ・ファスト・レイン」は、インターネットを通じてオーディション応募作を集めておりますが、有料会員制とすることで応募してくるインディーズアーティストの質を高め、CD メーカーサイドのニーズに応えるもので、早くもこの上半期でデビューアーティストを生み出すなど実績を残しており、今後の展開に期待しております。

## ③インフォメーションプロバイダー (IP) 事業活動

当社連結子会社であるジグノシステムジャパン株式会社は、主力の携帯電話待ち受け画面ユーザーは減少しましたが、Flash 技術等を活かした高機能端末向けのコンテンツやゲーム配信により IP 事業の維持拡大に努めました。また、当社との協業では、前期から展開している楽曲ダウンロードサイト「MUSIC VILLAGE」の有料会員が、9 月末時点で 6 万 3 千人に達したほか、FM 放送番組と連動した携帯サイトの構築・運営など高い技術を

活かしたソリューションサービスの提供を行いました。

一方、前期から展開している映像音楽制作事業を一層拡充させるため、CM 映像制作会社である株式会社オニオンを 4 月にグループ会社化、映像と音楽を一括受注できる体制を整えました。下半期には、地上デジタルテレビ放送のワンセグ番組向け BML ソリューション提供による売上増が期待されています。

#### ④その他の事業活動

出版事業では、親子の絆をテーマにしたラジオドラマを CD ブック化したほか、アーティスト・石井竜也出演の FM 放送番組と連動し、復活した米米 CLUB のオフィシャルブックをリリースするなど、放送連動書籍に力を入れた展開を行いました。

物販事業に関しては、「Shopping Tower」を連結子会社のジグノシステムジャパンとの共同事業として再スタート、仕入れ・物流・管理コストの効率化を図るとともに、番組発のオリジナル商品の開発・販売を積極的に展開いたしました。

以上

平成19年3月期 中間決算短信（連結）

平成18年11月14日

会社名 株式会社 エフエム東京

コード番号 681045

681045

本社所在都道府県

東京都

(URL <http://www.tfm.co.jp>)

代表者 役職名 代表取締役社長

氏名 富木田 道臣

問合せ先責任者 役職名 経理部長

氏名 東 和志

TEL (03)3221-0080

決算取締役会開催日 平成18年11月14日

米国会計基準採用の有無 無

(百万円未満切捨て)

1. 18年9月中間期の連結業績（平成18年4月1日～平成18年9月30日）

(1) 連結経営成績

	売上高		営業利益		経常利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%
18年9月中間期	16,106	△0.3	50	△79.5	19	△89.2
17年9月中間期	16,156	11.8	245	△27.4	177	△41.1
18年3月期	36,723		971		837	

	中間(当期)純利益		1株当たり中間(当期)純利益		潜在株式調整後 1株当たり中間(当期)純利益	
	百万円	%	円	銭	円	銭
18年9月中間期	△206	—	△231	66	—	—
17年9月中間期	△241	—	△269	77	—	—
18年3月期	△352		△429	32	—	—

(注) ① 持分法投資損益 18年9月中間期 △19百万円 17年9月中間期 △36百万円 18年3月期 △19百万円  
 ② 期中平均株式数(連結) 18年9月中間期 891,003株 17年9月中間期 896,355株 18年3月期 895,875株  
 ③ 会計処理の方法の変更 有  
 ④ 売上高、営業利益、経常利益、中間(当期)純利益におけるパーセント表示は対前年中間期増減率

(2) 連結財政状態

	総資産		純資産		自己資本比率		1株当たり純資産	
	百万円		百万円		%	円	銭	
18年9月中間期	53,412		33,821		54.1	32,252	28	
17年9月中間期	56,851		29,278		51.5	32,664	15	
18年3月期	56,465		29,246		51.8	32,821	64	

(注) 期末発行済株式数(連結) 18年9月中間期 896,355株 17年9月中間期 896,355株 18年3月期 890,111株

(3) 連結キャッシュ・フローの状況

	営業活動による キャッシュ・フロー		投資活動による キャッシュ・フロー		財務活動による キャッシュ・フロー		現金及び現金同等物 期末残高	
	百万円		百万円		百万円		百万円	
18年9月中間期	629		△662		△2,291		9,362	
17年9月中間期	△232		△0		△244		13,789	
18年3月期	133		△1,641		△1,076		11,686	

(4) 連結範囲及び持分法の適用に関する事項

連結子会社数 14社 持分法適用非連結子会社数 1社 持分法適用関連会社数 5社

(5) 連結範囲及び持分法の適用の異動状況

連結(新規) 1社 (除外) 1社 持分法(新規) 1社 (除外) 1社

2. 19年3月期の連結業績予想（平成18年4月1日～平成19年3月31日）

	売上高		経常利益		当期純利益	
	百万円		百万円		百万円	
通期	36,073		1,037		13	

(参考) 1株当たり予想当期純利益(通期) 14円 65銭

※ 上記に記載した予想数値は、現時点で入手可能な情報に基づき判断した見通しであり、多分に不確定な要素を含んでおります。実際の業績等は、業況の変化等により上記予想数値と異なる場合があります。

## 概 計 中 間 連 結 損 益 計 算 書

平成18年4月1日～

平成18年9月30日

単位：千円

勘 定 科 目	平成18年9月期 (18.4.1～18.9.30)	平成17年9月期 (17.4.1～17.9.30)	前年同期比
経常損益の部			
営業損益の部			
営業収益	16,106,762	16,156,279	99.7%
営業費用	16,056,393	15,910,885	100.9%
(内のれんの当期償却額)	426,101	419,619	101.5%
営業利益	50,369	245,393	20.5%
営業外損益の部			
営業外収益	66,117	48,256	137.0%
営業外費用	97,354	115,740	84.1%
経常利益	19,131	177,909	10.8%
特別損益の部			
特別利益	97,394	103,289	94.3%
特別損失	108,909	128,736	84.6%
税金等調整前中間純利益	7,616	152,462	5.0%
法人税、住民税及び事業税	202,971	347,897	58.3%
法人税等調整額	△ 2,395	△ 6,305	—
少数株主利益	13,448	52,677	25.5%
中間純損失	206,406	241,806	—

(注)金額は千円未満を切り捨てて表示しております。

平成19年3月期 個別中間財務諸表の概要

平成18年11月14日

会社名 株式会社 エフエム東京

コード番号

681045

本社所在都道府県

東京都

(URL <http://www.tfm.co.jp/>)

代表者 役職名 代表取締役社長

氏名 富木田 道臣

問合せ先責任者 役職名 経理部長

氏名 東 和志

TEL (03)3221-0080

決算取締役会開催日 平成18年11月14日

配当支払開始日

平成18年12月15日

単元株制度採用の有無 無

(百万円未満切捨て)

1. 18年9月中間期の業績(平成18年4月1日～平成18年9月30日)

(1) 経営成績

	売上高		営業利益		経常利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%
18年9月中間期	11,412	△ 3.6	346	5.9	576	38.0
17年9月中間期	11,835	△ 6.9	327	△ 32.8	417	△ 16.6
18年3月期	27,861		1,263		1,287	

	中間(当期)純利益		1株当たり中間(当期)純利益	
	百万円	%	円	銭
18年9月中間期	315	36.4	350	40
17年9月中間期	231	△ 7.2	256	88
18年3月期	424		444	86

(注) ① 期中平均株式数 18年9月中間期 900,000株 17年9月中間期 900,000株 18年3月期 900,000株

② 会計処理の方法の変更 有

③ 売上高、営業利益、経常利益、中間(当期)純利益におけるパーセント表示は対前年中間期増減率

(2) 財政状態

	総資産		純資産		自己資本比率		1株当たり純資産	
	百万円		百万円		%	円	銭	
18年9月中間期	46,484		30,225		65.0	33,583	40	
17年9月中間期	48,841		29,786		61.0	33,096	15	
18年3月期	49,263		30,205		61.3	33,535	04	

(注) ① 期末発行済株式数 18年9月中間期 900,000株 17年9月中間期 900,000株 18年3月期 900,000株

② 期末自己株式数 18年9月中間期 一株 17年9月中間期 一株 18年3月期 一株

2. 19年3月期の業績予想(平成18年4月1日～平成19年3月31日)

	売上高	経常利益	当期純利益
通期	百万円	百万円	百万円
	26,374	1,390	605

(参考) 1株当たり予想当期純利益(通期) 672円 46銭

3. 配当状況

・現金配当	1株当たりの配当金(円)		
	中間期末	期末	年間
18年3月期	30.00	30.00	60.00
19年3月期(実績)	30.00	—	60.00
19年3月期(予想)	—	30.00	

※ 上記に記載した予想数値は、現時点で入手可能な情報に基づき判断した見通しであり、多分に不確定な要素を含んでおります。実際の業績等は、業況の変化等により上記予想数値と異なる場合があります。

## 概 計 中 間 損 益 計 算 書

平成18年4月1日～

平成18年9月30日

単位：千円

勘 定 科 目	平成18年9月期 (18. 4. 1～18. 9. 30)	平成17年9月期 (H17. 4. 1～H17. 9. 30)	前年同期比
経常損益の部			
営業損益の部			
営業収益	11,412,714	11,835,554	96.4%
営業費用	11,066,107	11,508,347	96.2%
営業利益	346,607	327,207	105.9%
営業外損益の部			
営業外収益	293,546	135,208	217.1%
営業外費用	64,043	45,036	142.2%
経常利益	576,110	417,378	138.0%
特別損益の部			
特別損失	119,405	31,829	375.1%
税金等調整前中間純利益	456,705	385,549	118.5%
法人税、住民税及び事業税	115,940	60,095	192.9%
法人税等調整額	25,401	94,259	26.9%
中間純利益	315,362	231,194	136.4%

(注)金額は千円未満を切り捨てて表示しております。



## 前年同期比較営業収益内訳書(単体)

平成18年 4月 1日～  
平成18年 9月 30日

単位：千円

	平成18年9月期 (18.4.1～18.9.30)	平成17年9月期 (17.4.1～17.9.30)	前年同期比
営業収益	11,412,714	11,835,554	96.4%
放送事業収入	7,601,821	8,056,440	94.4%
放送収入	5,548,260	5,992,644	92.6%
タイム放送料	4,054,835	4,272,462	94.9%
スポット放送料	1,493,425	1,720,182	86.8%
制作収入	1,104,372	1,260,028	87.6%
その他	949,188	803,767	118.1%
企画事業収入	3,380,088	3,337,278	101.3%
賃貸事業収入	235,917	145,610	162.0%
その他事業収入	194,888	296,225	65.8%

(注) 金額は千円未満を切り捨てて表示しております。

## 42期(上期)広告会社取り扱い順位

### <総合順位>

42期	41期	広告会社
1	2	電通
2	1	博報堂DYメディアパートナーズ
3	3	ビデオプロモーション
4	4	アサツーディ・ケイ
5	6	オリコム
6	5	放送文化事業
7	8	毎日広告社
8	9	マッキャンエリクソン
9	7	ガイアコミュニケーションズ
10	11	東急エージェンシー

### <タイム>

### <スポット>

42期	41期	広告会社
1	2	電通
2	1	博報堂DYメディアパートナーズ
3	3	ビデオプロモーション
4	5	オリコム
5	6	アサツーディ・ケイ
6	4	放送文化事業
7	8	協同広告
8	14	マッキャンエリクソン
9	7	中宣メディア
10	11	東急エージェンシー

42期	41期	広告会社
1	1	電通
2	2	博報堂DYメディアパートナーズ
3	3	毎日広告社
4	6	京橋エージェンシー
5	5	ガイアコミュニケーションズ
6	21	放送文化事業
7	4	アサツーディ・ケイ
8	7	マッキャンエリクソン
9	8	アイアンドエス・ビー・ビー・ティオー
10	10	東急エージェンシー